

旧病院と最新の医療（ハードとソフト）



副院長
山本 和己

風薫る季節となりました。皆様には平素は当院の運営に大変お世話になり厚く御礼申し上げます。

現在当院は 50 年以上経過した建物から平成 33 年 11 月に竣工を予定しており、新病院建て替えの基本設計を各部門のワーキンググループで鋭意検討を行っています。

看護学校や職員宿舎の移転が終わり旧宿舎の解体工事、整地整備で駐車場、駐輪場等で皆様にご迷惑、ご不便をおかけしておりますことお詫び申し上げます。

新病院はよりインテリジェントで最新の医療設備を備えた病院となるべく計画をしています。

もっとも現在の建物は古くはなりましたが日進月歩の医療の世界で、医療の質、先端医療、医療安全等の病院の機能向上については職員一同日々努力を重ねております。

その一端として手術室部門では昨年 5 月より手術支援ロボット（ダヴィンチ）を導入し泌尿器科で手術症例を重ねています。またハイブリッド手術室が本年 4 月末より稼働を開始しました。従来から心臓血管外科で行われてきた大動脈瘤に対するステントグラフト内挿術（EVAR）に加えて経カテーテル大動脈弁植え込み術（TAVI）や経カテーテル僧帽弁修復術を実施できる環境

が整いました。ハイブリッド手術は術中 CT も可能であり脳神経外科や整形外科領域でも広く使用を予定しています。

さて私の所属する脳神経外科も最新の医療を積極的に行っています。

従来脳卒中内科により発症 4.5 時間以内の急性期脳梗塞で適応があれば rt-PA（血栓溶解療法）静注治療を行っていました。しかしながら rt-PA（血栓溶解療法）無効例や適応外症例で発症 8 時間以内であれば経皮的脳血栓回収術が有効であることが示されました。当院でも体制を整え現在 24 時間対応が可能であります。

当院ではまだ対応できませんが脳神経外科での最先端の治療も紹介します。

今まで直達手術やバイパス併用手術、コイル塞栓術でも治療困難であった巨大内頸動脈瘤においてフローダイバーターと呼ばれるステントが使用可能になりました。未だ関西地区でも治療可能な施設は限定されてはいます。原発性脳腫瘍に対する光線力学療法も保険適応になりましたが治療可能な施設は極限られています。

これら自分の施設で実際にやっていない診断や治療についても知っていることが重要です。

必要に応じて患者さんを紹介していくことも大事であると思っています。

さらにまだ臨床研究中ですが MR ガイド下収束超音波治療器によるパーキンソン病の治療や難治性神経障害性疼痛における経頭蓋磁気刺激装置の開発など目が離せない研究がたくさんあります。新病院完成時には実用化されている最新の医療を適切に提供していくことが大事と思っています。

診療科紹介 糖尿病内科

糖尿病内科は、糖尿病を中心に脂質異常症や高尿酸血症などの代謝疾患、甲状腺・下垂体・副腎などの内分泌疾患の診療を行っています。私共他、大橋誠糖尿病内科部長、清原義幹医長、若林侑香医師、奥田健医師、さらに久保田昌詞治療就労両立支援センター部長、良本佳代子健康診断部部長の計7名で、外来および病棟診療に当たっています。糖尿病の治療はチーム医療ですので、医師以外にも看護師（糖尿病教育、フットケア）、薬剤師（服薬指導）、栄養士（栄養指導）、臨床検査技師（検査数値の解説）、理学療法士（運動療法）、歯科衛生士（口腔ケア）など他職種とも連携し、治療、検査、教育を行っています。

現在、糖尿病患者は予備軍も含め2000万人以上とされています。日本は既に超高齢社会に突入しており、今後ますます高齢者糖尿病患者の増加が予想されます。特に高齢者の独居や高齢者のみの世帯が増加しており、糖尿病治療を難しくしています。2016年5月には日本糖尿病学会と日本老年医学会が合同で『高齢者糖尿病の血糖コントロール目標』を新たに作成しました。近年、糖尿病治療においてHbA1cの改善のみならず低血糖を避けることや食後高血糖を抑えることの重要性が認識されるようになり、より質の高い血糖管理が求められる時代になりました。

一方このような状況に応えるべく、薬剤や機器の

第二糖尿病内科部長 狭間 洋至



発達も目覚ましいものがあり、2009年以降、DPP-4阻害薬（週1回製剤も含む）、GLP-1受容体作動薬（週1回製剤も含む）、超持続型インスリン、SGLT-2阻害薬が相次いで発売され、いずれも血糖コントロールの安定や患者の治療負担軽減に寄与しています。また血糖変動を把握するために、これまで血糖測定器で1日数回血糖を測定し、ピンポイントの血糖を見て1日の血糖の動きを予想しておりましたが、最近は持続血糖測定システム（CGMS:Continuous glucose measurement system）が登場し、1日（特に夜間）の血糖の動きを詳しく把握できるようになりました。また2017年になり、さらに簡便で安価な持続血糖測定器も登場しています。

当科でもこのような状況に対応すべく、新しい薬剤や機器を積極的に取り入れ、より質の高い糖尿病診療を提供してまいります。また大学を中心とした多施設共同研究にも積極的に参加し、糖尿病治療の発展に貢献してまいります。これからも糖尿病内科をよりよくお願いいたします。



基本理念

誠実で質の高い医療を行い
すべての方々から選ばれる病院に

基本方針

1. 地域と連携し地域に信頼される急性期医療を行います
2. 高度で安全な医療に全力をあげてとりくみます
3. 患者さまの立場と権利を尊重する医療に努めます
4. 勤労者医療を担ってこれを推進します
5. 働きがいのある職場づくりを推進します

職場紹介 中央検査部

中央検査部で働いている職種は臨床検査技師と
言います。皆様、臨床検査技師を知っていましたか？
血液・尿・心電図・超音波・病理・輸血など多岐にわたる
検査を実施しています。また採血や各種感染症検査
の咽頭粘膜・皮膚・肛門等からの検体採取も行える職
種です。この機会に臨床検査技師と言う職種をしっか
りと記憶に留めてください。

当院の中央検査部を紹介します。総勢56名で医師
1名、臨床検査技師46名、検査助手9名で構成されて
います。特殊検査以外はすべて院内で実施しており、
主要検査は30分から1時間で結果を報告しています。
24時間緊急対応しており「迅速に正確な結果報告」
をモットーにしております。血球計数（白血球数・ヘモ
グロビン濃度・血小板数等）や尿検査は検体が中央検
査部に届いてから15分程度で報告しております。「正
確な結果報告」を証明するものとして国内最大規模
の精度管理事業である日本医師会や日本臨床衛生検
査技師会の臨床検査精度管理調査において平成28
年度は、いずれも100点満点でした。また日本臨床衛
生検査技師会の『精度保証認定施設』の承認を得て
います。さらに検体検査部門、生体検査部門、病理検
査部門のそれぞれに学会認定を受けた認定技師を多
数配置しており、各種学会の評議委員や役員等が在

中央検査部長 川淵 靖司



籍しております。毎年、学会・研
修会に多数の出席および発表
をして論文投稿も行っておりま
す。チーム医療としてはNST
（栄養サポートチーム）やICT（感染制御チーム）を
はじめとして他職種と連携し、日進月歩の医療界で決
して遅れをとることないスキルを持った中央検査部
だと自負しています。

最後に、検査の事を皆様に知っていただきたく採血
室中待合に「検査の知識」と言うパンフレットを配置し
ております。皆様、お気付きになっているでしょうか？
血液・尿検査から生体検査まで種々の検査についての
説明書を取り揃えております。まだ見られていない方
は是非ともご覧ください。検査の事でわからないこと
があればお気軽に声をかけてください。



皆様の提案を取り入れるための「提案箱」を設置しています。

積極的・建設的なご提案をお願い申し上げます。

ご提案先:総務課

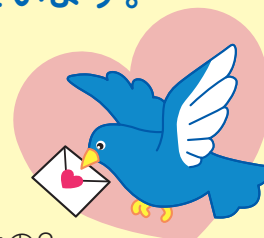
提出方法: ①投書の場合

総務課入口に設置してある「こうしたらどうや提案箱」まで

②郵送の場合 住所: 〒591-8025 堺市北区長曽根町1179番地の3

大阪労災病院 総務課 あて

③メールの場合 E-mail: soumukatyou@osakah.johas.go.jp まで



トピックス 大阪労災看護専門学校新校舎に新入生80名を迎えて

大阪労災看護専門学校教務長 児玉 善子

平素より、本校の教育運営活動にご協力、ご支援を賜り、誠にありがとうございます。

本校は、昨年10月に新校舎が完成し、11月2日の竣工式には、多数の関係者の皆様にご臨席賜りました。あらためまして感謝申し上げます。

さて、今年度より1学年の定員が40名から80名になり、新校舎も若さあふれる学生たちでにぎわっております。新校舎はとても快適な環境で授業や演習が行われています。

実際の病室を再現した模擬病棟は、シミュレーション学習の最適の場となっています。各教室は可動性が高く、用途に応じて大講義室として使用したり、40人単位の教室として使用したりすることができます。机や椅子も自由に移動させやすく、収納もしやすくなっているので、どの授業でもグループ活動や学習発表会のある場をつくることができ、多様な学習空間を創り出すことができます。図書室は採光に配慮され、ゆったりとしたスペースがあり、活用する学生も増加しています。1階に設けた500人が聴講できる講堂は、AV設備や照明設備が整い、2月には堺市がん患者と家族の会が主催された講演会が行われました。玄関先のスロープや手すり、多目的対応トイレも有効に活用していただきました。

そして、4階の日当たりのよい食堂は、オープンテラスのある開放的な空間で、お昼休みの憩いの場になっています(写真)。また、新しい学生寮はワンルームタイプになっていますが、フロアごとに設けられた談話室を他学年との交流や話し合いの場、一緒にランチ会をする場として活用され、寮生が主体となって運営しています。

私は、常々、看護師を目指す受験生や、就職先の病院、地域の人々から「選ばれる看護専門学校」を創っていきたいと思っています。そして、旧校舎から引き継がれた伝統を守りつつ、新しい時代の変化に対応し、何事にも挑戦を重ねていくことで、「選ぶ価値のある学校」へと変容していくことを望んでいます。

新校舎で学ぶ学生たちが、20年後、30年後の看護現場の中核を担える人材として成長できるよう育成に取り組んでいきたいと思っています。臨床講師の諸先生方、臨地実習指導者の皆様方、次世代へとつなぐ看護師の育成に今後ともご協力をお願い申し上げます。

最後になりましたが、この『そあみつ』をお読みいただいている皆様にも、本校の施設を有効利用していただければ幸いです。

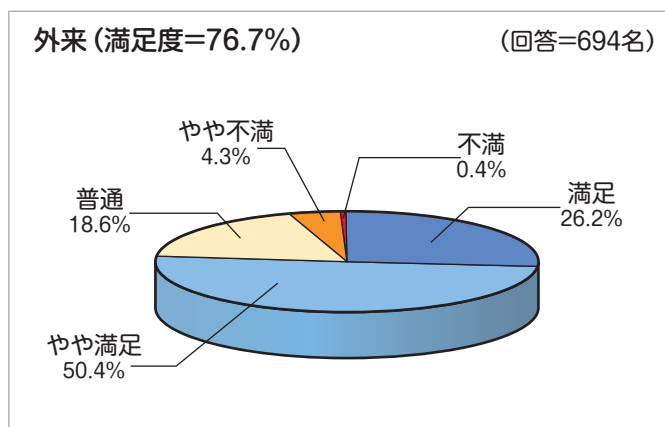
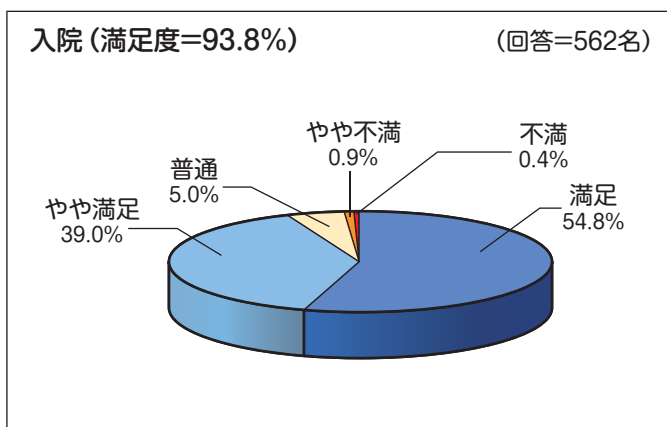


平成28年度患者満足度調査結果について

当院は、基本理念として『誠実で質の高い医療を行いすべての方々から選ばれる病院に』を掲げ、その達成のために職員一丸となって取り組んでおります。

毎年9月に入院及び外来患者様へアンケート調査を実施し、平成28年度の調査結果は下記のとおりとなりました。

◆ ◆ ◆ 設問 「全体としてこの病院に満足しているか」 ◆ ◆ ◆



皆様に少しでも満足いただけるよう様々な取り組みを行っています。

●取り組み例



◎女子トイレ等に除菌クリーナーを設置して、安心して使用できるようにしました。

◎その他

- CT 検査室前廊下の空調増設
→ 検査着での行動を考えて、冬場における環境改善を図りました。
- 琴演奏会の開催
→ 外来の待合室で、琴の演奏会を行って楽しく時間を過ごしました。



◎患病室常夜灯の照度を調整して、睡眠環境の改善を図りました。

今後とも患者さんにご満足いただける病院を目指し、病院サービスの向上に一層取り組んでまいります。

イベント紹介 医学文化教室のスケジュール (平成29年5月～11月の予定)

患者さん、ご家族の方、地域住民の皆様向け 大阪労災病院市民公開講座「医学文化教室」

開催日	時 間	所 属	講 師	演 題	内 容
平成29年 5月11日(木)	10:30～ 12:00	整形外科	塩見 俊行	ロコモティブシンドローム ～寝たきりにならないために～	ロコモティブシンドロームは、「ねたきり」や「要介護」の主要な原因です。 「メタボ」や「認知症」と並び、「健康寿命の短縮」、「ねたきりや要介護状態」の3大要因のひとつになっています。 ご高齢の方は、バランス能力、体力、移動能力の低下をきたし、ついには、立って歩く、衣服の着脱や、トイレなど、最低限の日常生活動作 (ADL) さえも、自立して行えなくなり、「健康寿命の短縮」、閉じこもり、廃用症候群や、寝たきりなどの「要介護状態」になっていきます。 本講演ではこのロコモティブシンドロームをわかりやすく解説し、自己でできる簡単な予防法、当院での治療法についてお話します。
		中央リハビリテーション部	佐藤のぞみ	ロコモティブシンドローム症状 と リハビリテーション	ロコモティブシンドロームについて、原因、症状の説明をさせていただきます。治療とリハビリについて医師とリハビリ両面からお話します。
平成29年 6月6日(火)	11:00～ 12:00	治療就労 両立支援 センター	久保田昌詞	禁煙外来のすすめ	タバコの煙には400種類もの発がん物質が含まれ、がんのリスクを高めるほか、心臓病や慢性の肺の病気も引き起こします。禁煙外来では貼り薬や飲み薬で禁煙をサポートします。さあ、あなたもタバコを卒業しませんか？
平成29年 7月6日(木)	11:00～ 12:00	麻酔科	旭爪 章統	带状疱疹って、どんな病気？ ～带状疱疹は初期が大切！～	『突然痛くなって、ブツブツができて・・・』 『治っても痛みが残ることがあるんでしょ・・・？』 带状疱疹をご存知の方も、聞いたことがない方も、その原因と带状疱疹後神経痛へ至る経過、そして治療について整理してみましょう！
平成29年 8月10日(木)	11:00～ 12:00	脳神経外科	馬場 庸平	頭痛のお話	一言で頭痛といっても、頭痛をひきおこす病気は数多くあります。様子を見ていい頭痛もあれば、内服で治していく頭痛、救急車を呼んで急いで治療すべき頭痛もあります。 今回は、脳神経外科に関連した緊急性を有する頭痛の見分け方とその病気の概略についてお話したいと思います。
平成29年 9月5日(火)	11:00～ 12:00	循環器内科	矢野 正道	「心不全」とは どのような病気？	心疾患は全死亡数の 15%ほどを占めています。中でも心不全は心疾患の終末像であり、早期発見、原因検索、病態に応じた適切な治療はもちろんのこと、日常生活での様々な管理によってうまく付き合っていくことができます。今回、心不全では体の中で何が起きているか、それに対してどのような管理が適切か、などわかりやすくお話しいたします。
平成29年 10月2日(月)	11:00～ 12:00	腎臓内科	芳賀 亮太	CKD(慢性腎臓病) ～知らないといけない腎臓の病気～	CKD(慢性腎臓病) は成人の 8人に 1人程度と非常に頻度の高い疾患ですが、初期にはほとんど自覚症状がなく、逆に症状が出た時にはすでに末期の状態では血液透析が必要となることもあります。生活習慣改善による予防と、定期的な健康診断による早期発見が重要であり、そのポイントを解説させていただきます。
平成29年 10月19日(木)	11:00～ 12:00	眼科	北尾 匡弘	白内障ってどんな病気？ ～最近モノがぼやけて見えませんか？～	白内障は初期では自覚症状がない場合が多く、気が付きにくい病気です。進行すると、ぼやけて見えにくい、物が二重に見える、光がまぶしく感じるなどの症状が現れます。 気になる症状はありませんか？白内障の正しい知識を手に入れましょう！
平成29年 11月21日(火)	11:00～ 12:00	薬剤部	稲村 勝志	知って得する！ 薬の正しい使い方 ～クイズで学ぼう！くすりやサプリ～	安全に薬を使用して、健やかな毎日を送っていただくために、「薬の正しい使い方5カ条」について、クイズ形式でお話ししたいと思います。 また、サプリメント(健康食品) についても、みなさんの疑問などをクイズで考えてみましょう。

*平成29年12月以降についても開催を予定しております(現在、企画中です)。

開催内容等が決まりましたら、病院ホームページ等でご案内いたします。

イベント紹介 大阪労災病院看護週間行事

看護協会テーマ：看護の心をみんなの心に

大阪労災病院テーマ：暖かい看護の心をあなたにも

	5月10日(水)	5月11日(木)	5月12日(金)
催 し 物	パネル展示(各科外来)		
	健康相談(売店前) 13:30～15:00	医学文化教室(大ホール) 「ロコモティブシンドローム」 塩見 俊行(整形 Dr) 佐藤のぞみ(理学療法士) 10:30～12:00	アロマ同好会によるハンドマッ サージ体験(中庭前) 10:00～12:00
	ナイチンゲール生誕祭(入院中の患者様に記念品をお配りします)		

平成28年度優秀な研究等に対する表彰

平成28年度優秀な研究等に対する表彰で、当院の整形外科副部長：北圭介氏が「多変量解析による内側膝蓋大腿靱帯再建術の術後成績に影響を与える解剖学的因子の検討」で表彰されました。表彰式は平成28年10月26日(水)に行われ、労働者健康安全機構理事長より表彰状等が授与されました。



北圭介氏

編集後記

新緑が眩しい季節になってきました。新しい職員宿舎も完成間近となり新病院建設に向け段階的整備工事が着々と進行しています。病院本体の進捗状況としては、基本計画が本部承認され、現在基本設計に着手している段階です。どうやら新病院竣工は新しい年号で迎えることになりそうですが、ハード・ソフトともに未来を見据えた病院となるよう頑張っていきましょう。(S.N)

管理職 新人紹介

〈平成29年 1月 1日付〉



整形外科副部長 長本 行隆

専門分野：整形外科、脊椎外科

出身大学：金沢大学（平成13年卒）

当院では通常の脊椎変性疾患以外にも側弯などの特殊な疾患も扱っており、これらも学ばせていただきながら、少しでも大阪労災病院のお役に立てるよう頑張ります。よろしくお願いいたします。

〈平成29年 4月 1日付〉



高血圧卒中内科第二部長 寺崎 泰和

専門分野：脳血管障害

出身大学：大阪大学（平成11年卒）

大阪大学神経内科・脳卒内科より赴任してまいりました。脳卒中の診療や市民啓蒙に従事してきた経験を活かし、大阪労災病院を通じて地域医療に貢献できるよう頑張る所存です。どうぞよろしくお願いいたします。



消化器内科 消化管内科部長 山田 拓哉

専門分野：消化器内科

出身大学：大阪大学（平成12年卒）

大阪医療センターから赴任してまいりました。早期がんに対する内視鏡治療を専門としていますが、消化管疾患全般に対して南大阪の地域医療、病院診療に貢献できるよう頑張りたいと思っています。よろしくお願いいたします。



泌尿器科副部長 辻本 裕一

専門分野：泌尿器科

出身大学：岡山大学（平成8年卒）

済生会千里病院から転勤してきました。今まで学んできた多数の貴重な症例の経験を活かし、これからも地域医療に微力ながら貢献したいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



放射線診断科部長 岡田 篤哉

専門分野：画像診断、IVR

出身大学：大阪大学（平成4年卒）

西宮市立中央病院から異動してきました。平成5年から2年間、当病院で研修しましたので、22年ぶりの復帰になります。CT/MRIなどの検査で適切な診断を提供できるよう日々精進していきたいと思っています。



放射線治療科部長 川口 善史

専門分野：放射線治療

出身大学：大阪医科大学（平成14年卒）

大阪府立成人病センターから赴任してまいりました。成人病センターでは、8年間で約1,600人のがん患者さんの放射線治療に携わらせていただきました。これまでの経験を活かして、大阪労災病院でも良質な放射線治療を提供できるように頑張りたいと思っています。よろしくお願いいたします。



看護部長 佐野 恵子

8年ぶりに大阪労災病院に戻って参りました。懐かしい方々からお声をかけて頂き大変うれしくまた心強く感じております。病院運営や看護の質向上に向け頑張る所存です。

中央放射線部長 太田 育宏

岡山労災病院から北海道中央・香川を経て、大阪へ異動してまいりました。関西地区は初めてですが地域医療に貢献できるよう頑張りますのでよろしくお願いいたします。



事務局次長 三浦 弘二

10年ぶりに関西地区で勤務することになりました。今後、増改築工事が本格的に始まりますが、微力ではありますが頑張りますので、よろしくお願いいたします。



総務課長 小尻 宏

数施設の転勤を経て13年ぶりの大阪勤務となり、相変わらずの活気を感じています。増改築を控えた全国屈指の病院で、これまでの経験を活かし貢献できるよう頑張りますのでよろしくお願いいたします。

